



2016.10.27.

紅谷 浩之

経済・財政一体改革推進委員会 第15回 社会保障ワーキンググループ



2011年2月1日開設
 2013年2月1日医療法人化
 2014年5月より以下3事業開始
 訪問看護ステーション
 訪問介護事業所
 居宅介護支援事業所

福井県福井市(人口27万人,高齢化率27%)
 医師4人体制で24時間365日の在宅医療を提供する
 在宅療養支援診療所 在宅患者数約230名,年間在宅看取り数約80名

2012年 厚生労働省・在宅医療連携拠点事業(全国105施設)
 2015年 厚生労働省・人生の最終段階における相談支援事業(全国5施設)

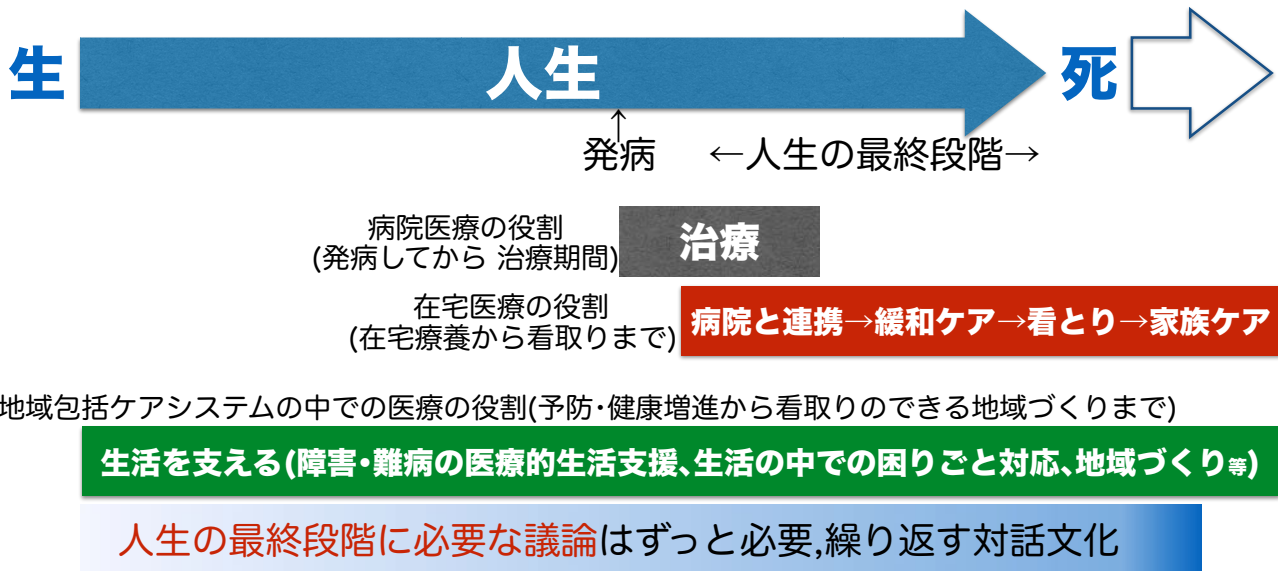
2013年～ 劇を使った在宅医療多職種連携実践研修会を全国で開催
 (これまで13府県にて41回開催)
 2015年～ 専門職・一般市民向けに「地域包括ケア」について知ってもらう劇講演を開始
 (これまで5県にて11回開催)

Mission: 在宅医療を通して、地域の人々がHappyに過ごし続けられる「まちづくり」
 (地域包括ケアシステムの構築)



人生における医療の役割

3



地域包括ケアシステムの中での医療の役割(予防・健康増進から看取りのできる地域づくりまで)

生活を支える(障害・難病の医療的生活支援、生活の中での困りごと対応、地域づくり等)

人生の最終段階に必要な議論はずっと必要,繰り返す対話文化

各ステージにおけるオレンジの取り組み

予防/生活の中での困りごと対応→まちかど健康相談ステーション“みんなの保健室”

障害児者の医療的生活支援→医療ケア児の保育園・児童館“オレンジキッズケアラボ”

予防視点の外来診療所→“つながるクリニック”

障害・難病の在宅療養から看取りまで→在宅支援診療所“オレンジホームケアクリニック”

今後の在宅ケアの中心は看護師→医療と生活を密着させる訪問看護ステーション

家族と同等の医療ケアを行える介護職→医療とITに強い訪問介護チーム

詳細は末尾資料参照

医療のパラダイムシフト

4

病院での医療の役割と地域(生活)での医療の役割を変えていく必要がある

病院で病気療養のためにやりたいことを制限する医療ツールと
自宅生活の中でやりたいことを応援する医療的生活ツールは
同じ道具でも立ち位置が異なる



メガネ

視力矯正器具→ファッションアイテム

人工呼吸器

命を守るための医療機器(なによりも重要)
人工呼吸器があるので安静に過ごす

↓
小型化した人工呼吸器を持ってどこへでも行ける

オレンジキッズケアラボでは呼吸器キッズも海水浴や軽井沢へお出かけ



医師・看護師も同様

病気を理由に生活を管理・指導するのではなく
病気を持ってその人の人生の大切なことや幸せを守るために
便利に使われる道具になる